

リノベーション工事に関わる実践的な研究

吉直怜士 西野匠 笹川衛那 大平優樹

研究動機・目的

去年の3年生が行っていた空き家だった玉井屋さんのリノベーションの発表を聞き、まず始めに関心を持ちました。私たちの進路も建築関係の学校ということもあり、建物の調査から何ができるか、ワクワクしたことが取り組みの動機でした。

目的は、何が技能を習得する中で地域貢献できればと考えましたが、建物の調査と所有者との話し合いから、欄間の組子についての研究、制作に取り組み、その体験・研究から自分たちの進路に生かせる技能の習得、合わせてこの建物を使っていたく皆様を通じて地域を活性化させることを目的としました。

研究内容

木曽福島にある玉井屋という、観光客に木曽の魅力を発信している建物をリノベーションした。玉井屋さんの建物内を測り、図面をおこして、どこをリノベーションするのか考えました。その中で今回は、玉井屋の管理人の下野さんが壊れた欄間を修繕してほしいと要望をいただいたので、二階にあった欄間を修繕することにしました。

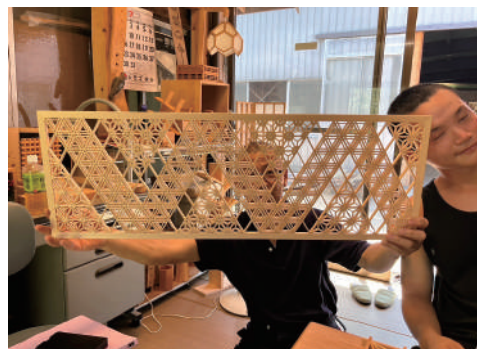
作り方もなにもわからない状況からのスタートだったので、南木曽にある楯木工製作所さんに行きました。楯木工製作所では、組子の作り方を教えてもらったり、実際に制作された作品を見させていただきました。その後、学校に戻り、組子の制作を開始しました。完成した欄間を玉井屋に取り付けました。

研究の流れ

【玉井屋の下見と平面図の作成】



【楯木工製作所で見学・体験】



【組子の制作】



→



→



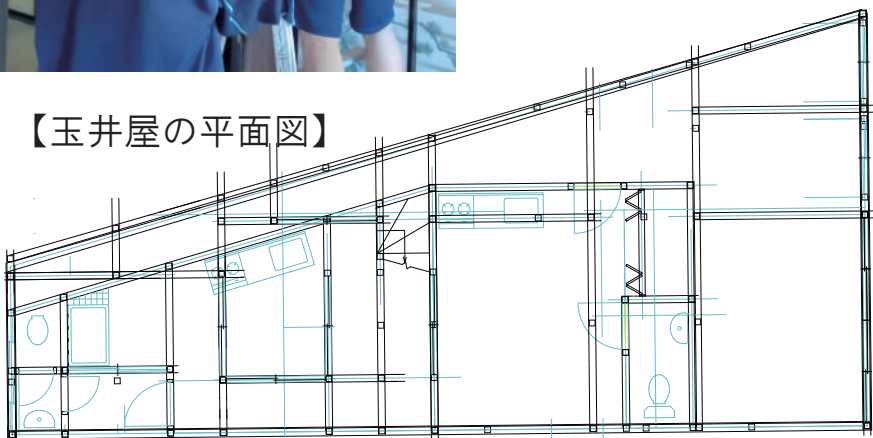
→



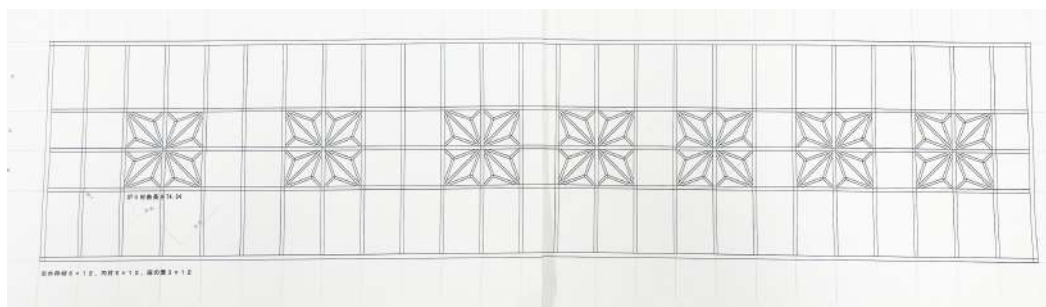
→



【玉井屋の平面図】



完成品



→



長さ：1300mm 幅：370mm 厚さ：15mm

まとめ

見学を通して組子細工の細かい所やアート作品にも使えることを改めて知れたので良かったです。作成で欄間の材料などが数も多く細かいので時間もかかってとても難しかったです、4人で協力しながら妥協せずに制作し、達成感を味わうことができました。今回の細かい技術を今後活かしていきたいです。



【市民タイムスの記事】